

I 実 践

1 研究主題

「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができる態度の育成」

(1) 主題設定の理由

本校の生徒は、明るく学習や部活動に意欲的に取り組む生徒が多い。一方で、相手の気持ちを考えない言動をしてしまう生徒もいる。「人権教育とは全人間一人一人を大切にする教育である」ことを全職員で共通理解し、自分の大切さとともに他の人の大切さも認めることができる生徒を育成できるようこの研究主題を設定した。

(2) 研究の内容

- ① 人権メッセージや人権作文などへの積極的な参加
- ② 全校道徳や学級道徳による人権教育

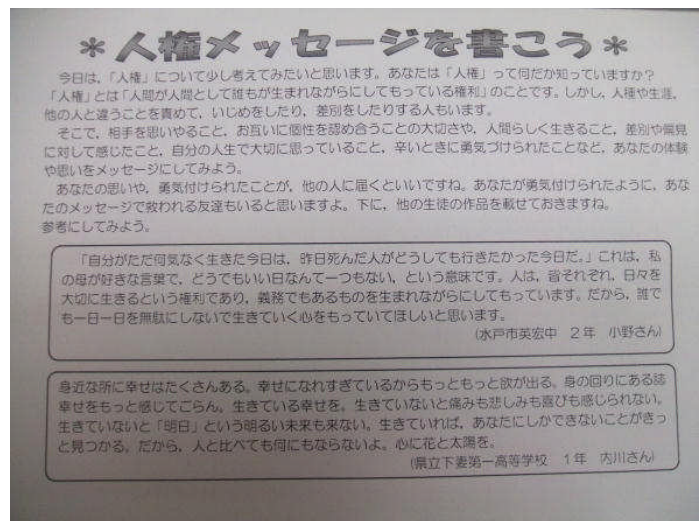
2 実践内容

(1) 人権メッセージ・人権作文

学活や道徳の時間などを利用し全校生徒で取り組んだ。昨年の人権メッセージを参考にし、人権とは何かを考え、メッセージを書いた。また人権作文を夏休みの課題として実施した。

生徒メッセージ

辛い時、「大丈夫！」って言ってくれると、嬉しくなる。あなたが言った一言で幸せになれる人がいる。私も優しい気持ちを届けていきたい。



(2) 道徳

①全校道徳 「いじめ」「世界の働く子どもたち」

学期に1度、全校集会の際に生徒指導とタイアップし全校道徳を行った。第1回は、いじめ問題についてであった。何気ない一言で相手を傷つけてしまうことがあることや「いじめをしない、させない、許さない。」ということを強調した。第2回は、世界の働く子どもたちの現状などを写真を用いて説明し、全校生徒でその子どもの人権や働くことについて考えるとともに、学級で深化させた。

生徒感想 いじめは、人として絶対にしてはいけないと改めて思った。

食べたくても食べられない人がいることを忘れずにいたいです。

②学級道徳 「相手の気持ちを聞き取ろう」

1学年全学級を対象に、上手なコミュニケーションの取り方を学ぶ内容である。日常生活の寸劇を見ながら、非言語的表現から相手の気持ちを考えるソーシャルスキルトレーニングを行った。

ア 寸劇 あらすじ

ある日の教室のAとBの会話。Aは、Bのことを考えてお土産を買っていったが、「どこにでもあるもんじゃねーか。」「今度は、もうちょっとましなものをくれよ。」

と言い、Aを起こらせてしまう。

イ ソーシャルスキルトレーニング

2人組になり、質問に非言語的表情で言葉を使わず、相手の気持ちをくみ取る練習をした。

(3) ありがとうのクリスマスカード

今年1年一緒に過ごした友達や先生のよかったこと、頑張っていたことを思い出し、ありがとうメッセージをお互いに書く。相手のマイナスではなく、よいところを探して、友達へのクリスマスカードを作り、お互いにプレゼントした。

- ・〇〇は、いつもおだやかでやさしくておもしろい人だと思っているよ！
- ・いつも勉強教えてくれてありがとう！



3 成果

全校生徒が人権作文や人権メッセージを書くことによって、自分の大切さや他の人の大切さ、命の大切さを深く考える機会となった。また人権作文では、祖父母の戦争体験より戦争とは人が人として生きられない悲惨で残酷な体験であり、当たり前と思えることがとても幸せであることを訴え、人権作文コンテスト日立・高萩・北茨城大会金賞になった生徒もでた。全校道徳や学級道徳では、人権や相手の気持ちを考えた言動の大切さを学ぶことができた。クリスマスカードでは友達のよさに気づくとともに自分のよさを再確認し、自己存在感を得ることができたように思う。

II 今後の課題

今後は、より深く人権について学び、自分も他の人も大切にできる態度を養っていけるよう、さらに職員間で共通理解をし、各教科、道徳、特別活動等と関連させながら、横断的・総合的に人権教育ができるよう研修を重ねていきたい。

III 人権コーナー設置

職員室近くの壁面に「人権コーナー」を設置した。人権ポスターや生徒の人権メッセージを掲示することにより、立ち止まって友達の人権メッセージなどを目し、人権について身近に考える機会が増えたように思う。

今後は、人権教育の生徒作品や授業のワークシートなども掲示し、さらに充実させていきたい。

